

にいみ 市議会だより

2020年2月

第8号

新見市議会広報紙 12月定例会

目次

- ② 12月定例会審議内容
- ③ 常任委員会
- ⑥ 一般質問
- ⑪ 議長等の活動報告
- ⑫ 行政視察報告
- ⑭ 議会報告・意見交換会を開催しました
- ⑮ 議会Q&A・
- ⑯ 3月定例会(予定)・編集後記



皆さまの無病息災を願いますとともに、災害のない一年であることを心より祈念申し上げます。
(萬歳地区とんど祭り から)

令和元年
12月定例会
審議内容

補正予算1億6590万円追加
河川監視カメラ整備事業
新見駅周辺地域のまちづくり
特別委員会設置

令和元年12月定例会は、11月26日から12月20日まで開催し、条例10件、令和元年度補正予算9件、その他議案9件、災害により継続審査となっていた平成30年度の一般会計歳入歳出決算および特別会計歳入歳出決算10件、発議3件を審議しました。主なものについて紹介します。

条例

条例第36号 新見市職員定数条例の一部改正

市長の事務部局の職員定数490人を478人に改め、新たに水道企業職員12人を加える。

条例第41号 新見市市営住宅管理条例の一部を改正する条例

国の法令改正に伴い、賃借人の原状回復義務の範囲の見直しや連帯保証人の要件が廃止されます。

その他議案

議案第26号 公立大学法人新見公立大学の定款の変更

4大化により、短期大学を閉学することに伴い変更されます。

議案第28号 新見市移住交流支援センターの指定管理者の指定について
NPO法人nimmが指定管理者となりました。

議案第29号 新見市哲西診療所の指定管理者の指定について

社会医療法人哲西会が指定管理者となりました。

議案第30号 新見市哲西歯科診療所の指定管理者の指定について

医療法人牧水会が指定管理者となりました。

議案第31号 土橋交流センターの指定管理者の指定について

土橋地区振興会が指定管理者となりました。

議案第32号 足見ふれあいセンター

の指定管理者の指定について

足見地区振興会が指定管理者となりました。

議案第33号 新見市神郷紙の館・水車の指定管理者の指定について

株式会社いろりカンパニーが指定管理者となりました。

補正予算

●河川監視カメラ整備事業

2730万円

豪雨等の際、より早く確実な避難行動を促すため河川の状況を把握するためのカメラを増設・更新し、ケーブルテレビや市のホームページなどで情報提供できるように整備します。新設4箇所、更新3箇所。

●被災者生活再建支援金給付事業

2350万円

今年9月の集中豪雨で全壊した世帯および半壊し住宅解体をした世帯主に支援金を支給します。10世帯。

請願・陳情

陳情第15号 加齢性難聴者の補聴器購入に対する公的補助制度創設を求める陳情

継続審査としました。

発議

発議第9号 厚生年金への地方議会

議員の加入を求める意見書

発議第10号 新たな過疎対策法の制定に関する意見書

発議第11号 新見駅周辺地域のまちづくり特別委員会設置

委員長 仲田 康豊
副委員長 岡崎 裕生
委員 議員を除く全員

◎設置理由

新見駅周辺地域の活力低下への対策である新見駅周辺地域整備事業については、市民、行政、議会が一丸となって取り組んで行くことが急務である。

市民の代表である市議会が、市民の立場から事業に対する意見や提案を行えるよう、事業内容の調査検討を行うため。

◎調査事項

- (1) JR新見駅舎の整備について
- (2) 新見駅南側と北側の結節強化について
- (3) 新見駅を中心とした交通網および公共交通の整備について
- (4) 新見駅周辺地域の町並み整備について
- (5) 地域が活性化していくための仕組みづくりについて
- (6) 新見駅西エリアの整備について

令和元年12月定例会審議結果

●全会一致で可決等したもの

決算	7件認定	その他議案	9件原案可決
条例	9件原案可決	陳情	1件継続審査
予算	9件原案可決	発議	3件原案可決

●賛否が分かれたもの

		議席番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
議案番号	議員名	議案名	西川照雄	岡崎裕生	古川英明	宮本英基	小河俊文	岩田秀之	坂東義生	山本昌次	杉本美智子	難波孝一	小郷昌一	林光和	塩飽満路	橋本亨子	仲田康豊	榎日出男	石田實
	議案名	議案名	西川照雄	岡崎裕生	古川英明	宮本英基	小河俊文	岩田秀之	坂東義生	山本昌次	杉本美智子	難波孝一	小郷昌一	林光和	塩飽満路	橋本亨子	仲田康豊	榎日出男	石田實
決算第1号	平成30年度新見市一般会計歳入歳出決算		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○
決算第3号	平成30年度新見市国民健康保険特別会計歳入歳出決算		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○
決算第4号	平成30年度新見市介護保険特別会計歳入歳出決算		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○
条例第45号	新見市水道事業条例の一部を改正する条例		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○

※「○」は賛成、「×」は反対、「－」は欠席。議長は表決に加わりません。

総務消防 常任委員会

議員災害時対応マニ ュアルについて協議

総務消防常任委員会は12月9日に開催し、12月議会に上程され付託された8議案を審査した後、執行部からの報告事項と委員からの調査を行いました。主な内容を紹介します。

付託事件の審査

各議案について、執行部の説明を聴取し、慎重に審査しました。詳細は次のとおりです。

条例第36号 新見市人事行政の運営等の状況の公表に関する条例等の一部を改正する条例

条例第37号 新見市一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部を改正する条例

条例第38号 新見市職員給与条例の一部を改正する条例

条例第39号 新見市会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例

議案第25号 公立大学法人新見公立大学の中期目標（第3期）について

議案第26号 公立大学法人新見公立大学の定款の変更について

議案第27号 公立大学法人新見公立大学が徴収する料金の変更について

議案第28号 新見市移住交流支援センターの指定管理者の指定について

以上条例4件、議案4件について、原案のとおり可決しました。

調査事件について

議員災害マニュアルについて委員全員で協議しました。

その他

新たな過疎対策法の制定に関する意見書(案)に関する発議について

新たな過疎対策法の制定に関する国への意見書について、本会議において委員会発議することを全会一致で決定しました。



文教福祉 常任委員会

哲西診療所・哲西歯科 診療所の指定管理者の 指定について審査

文教福祉常任委員会は12月10日に開催し、12月議会に上程され付託された2議案と陳情1件を審査した後、執行部からの報告事項と委員からの調査を行いました。主な内容を紹介します。

付託事件の審査

議案第29号 新見市哲西診療所の指定管理者の指定について

哲西診療所の指定管理者を社会医療法人哲西会に指定することを可決しました。期間は令和2年4月1日から10年間です。

議案第30号 新見市哲西歯科診療所の指定管理者の指定について

哲西歯科診療所の指定管理者を医療法人牧水会に指定することを可決しました。期間は令和2年4月1日から10年間です。

陳情第15号 加齢性難聴者の補聴器購入に対する公的補助制度の創設を求める陳情書

陳情者から趣旨説明を受け活発に質疑されましたが、さらに調査検討

に時間を要するとして継続審査することに決定しました。

報告事項について

●来年度から哲多地域の公民館を整理し、哲多総合センターを本館、夢ひろば萬歳を萬歳分館、新砥公民館を新砥分館にすると報告がありました。

●住民税非課税世帯と3歳未満の子を養育している人へプレミアム付商品券を販売する事業は、住民税非課税世帯の申請者が34・6%と少ないため12月27日まで延期するともに、商品券が使える店は申し込みがあり次第、市のホームページで公表すると報告がありました。

調査事件について

委員会 「学校へのタイムカードの設置は終了したか」

答弁 「10月末に設置は完了した。1月から使用する」

委員会 「特別支援教育推進センターの活動状況を尋ねる」

答弁 「4月から開設し、センター長、通級指導員、教育相談員などを配置し、各学校の巡回、ケース会議への参画、教職員対象研修会の実施などを行っている」

産業建設 常任委員会

いぶきの里スキー場 現地調査

産業建設常任委員会は、12月11日に開催し、12月議会に上程され付託された条例6件および議案3件を審査しました。その後、執行部からの報告と委員からの調査を行いました。主な内容を紹介します。

付託事件の審査

条例6件については可決し、条例41号・42号・43号はともに、新見市営の住宅で入居の際の保証人条項をなくし退去の際の畳みの張り替え・破損ガラスの取り替え等の軽微な修繕を、交付の日から入居する方には、求めないものです。

条例45号は水道条例の一部を改正するもので、令和2年に簡易水道料金を

上水道料金と同一にし、令和4年には全料金を10・8%値上げするものです。

賛否は9対1で原案を可決しました。議案3件は、いずれも指定管理者の指定で、可決しました。

その内、議案33号神郷紙の館・水

車の指定管理者の指定については、これまでの直営施設を、いりりカンパニーに150万円の委託料で指定管理し、観光施設としてさらに振興させるために民間の力を入れます。

報告事項について

商工観光課より ふるさと大使にチキチキジョニーの石原祐美子さんを委嘱。

法務局証明サービスセンターを本庁舎1階西フロアーに設置。

建設課より 大佐スマートインターが24時間利用可能となりました。

都市整備課より 市の住宅において単身者の入居条件の緩和がされ、該当者はすべての住宅に入居できます。

農業委員会より 7月19日で農業委員と最適化推進委員の任期が満了します。

調査事件について

委員会 「都市計画のマスタープランの現在の進捗状況は。前回との違いは」

答弁 「12月末までには素案ができる状況だが新総合振興計画がもとになるので、公表の時期は振興計画の後、もしくは同時になるかと思う。前回との違いは災害に強い形となっているが、大まかなプランを今回

のマスターの見直しで行い、より具体的なところを立地適正化計画の中で考えている。

住民への公表についてパブリックコメントを予定しているが、新総合振興計画と、同時期に考えている。その後都市計画審議会にかけて公表という流れになると思う」

委員問 「雨水排水計画と、水路の改修計画について」

答弁 「西方地区の関係は現在コンサルが調査、検討業務を行っている。県の砂防ダムの説明会は2年1月を予定している。詳細について住民の方の意見を聞く場を持つとすれば、その後になると思う。」

風木谷川についても先日県に要望に行った。1月の説明会は県と市合同で行うが未定。被害状況は把握しているつもりだが、今後計画を提示しながら住民の方の意見を聞かせていただきたい」

午後いぶきの里スキー場の圧雪車と発電設備について現地調査を行いました。



本年度いぶきの里スキー場に購入した圧雪車

予算決算 常任委員会

平成30年度決算 令和元年度補正予算

予算決算常任委員会は12月12日、13日に開催し、平成30年度一般会計歳入歳出決算、特別会計歳入歳出決算について、継続審査となっていた決算10議案、令和元年度新見市一般会計補正予算、特別会計補正予算8議案を審査しました。

決算審査

平成30年度一般会計の歳入決算額は268億5583万2千円、歳出決算額は242億9939万3千円で、特別会計の歳入決算額は125

億6646万6千円、歳出決算額は120億5435万6千円となっています。

決算第1号 平成30年度新見市一般会計歳入歳出決算

決算第2号 平成30年度新見市診療所特別会計歳入歳出決算

決算第3号 平成30年度新見市国民健康保険特別会計歳入歳出決算

決算第4号 平成30年度新見市介護保険特別会計歳入歳出決算

決算第5号 平成30年度新見市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算

決算第6号 平成30年度新見市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算

決算第7号 平成30年度下水道事業特別会計歳入歳出決算

決算第8号 平成30年度新見市観光事業特別会計歳入歳出決算

決算第9号 平成30年度豊永財産区特別会計歳入歳出決算

決算第10号 平成30年度新見市萬歳財産区特別会計歳入歳出決算

以上10件は、慎重審査の結果、認定しました。

予算審査

令和元年度12月一般会計の補正予算は歳入歳出それぞれ1億6509

万1千円の追加で、総額は歳入歳出それぞれ286億3457万6千円となっています。

また、特別会計の補正予算は歳入歳出それぞれ1355万5千円の追加で、総額は歳入歳出それぞれ131億5311万8千円となっています。

予算第36号 令和元年度新見市一般会計補正予算（第4号）

予算第37号 令和元年度新見市診療所特別会計補正予算（第1号）

予算第38号 令和元年度新見市国民健康保険特別会計補正予算（第2号）

予算第39号 令和元年度新見市介護保険特別会計補正予算（第3号）

予算第40号 令和元年度新見市後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）

予算第41号 令和元年度新見市簡易水道事業特別会計補正予算（第3号）

予算第42号 令和元年度新見市下水道事業特別会計補正予算（第4号）

予算第43号 令和元年度新見市観光事業特別会計補正予算（第2号）

予算第44号 令和元年度新見市水道事業会計補正予算（第3号）

以上9件は、慎重審査の結果、可決しました。

一 般 質 問



議員は、毎年3月・6月・9月・12月に開く市議会定例会で市政全般について質問することができます。これを「一般質問」といいます。今定例会では10人の議員が一般質問を行いました。ここに掲載したのはその質問と答弁の概要で、質問者本人が原稿の執筆と校正をしています。



とここが ききたい



にしかわ てるお
西川 照雄
議員

満奇洞VR（バーチャル・リアリティ）による情報発信の反響と具体的な観光客の取り込みについて

問 これにアクセスするには、海外においても新見市のホームページに入ってからでないと視聴することはできないのか。それとも現地の旅行案内サイトからでも直接、気軽にアクセスできるのか。

答 海外からでも「満奇洞VR」と検索していただければ、気軽にアクセスできるようになっている。

問 では、反響の数において、日本人と外国人の割合はどれくらいか。

答 反響は、寄せられた件数では、月平均5千件、多い月だと2万件を越える月もある。総数13万1千件を超えるが、内訳は、99%が日本人、1%が外国人である。

問 具体的な観光客の取り込みが、集客、集金に繋がり、真の観光振興であると考えているか。

答 今年度は、カメラ女子ツアーやコスプレイベントを開催し、PRに

努めている。

問 提案だが、洞窟レストランの限定開催やウェディング会場の企画はどうか。

答 洞窟レストランについては、天然記念物でもあり、なお調査が必要。ウェディングについては、カップルや夫婦の記念日など「恋人の聖地」に選定されたことから前向きに検討したい。

地域医療の将来像について

問 周辺地域の交通手段維持につき、診療後の滞在時間も考慮した運行や増便は。

答 現行の公共交通体制を引続き維持する。利用者に配慮した運行を行うっており、増便は考えていない。

問 地域ごとに課題も異なることから新見市独自の「医療計画」の策定が重要と考えるか。

答 県の計画も地域の課題を盛り込んでいることから、現在のところ考えていない。



はしもと きょうこ
橋本 亨子
議員

地域共生社会の構築に向けた取り組みについて

問 進捗状況は。

答 5月に法曾熊野、6月に唐松で地域運営組織が設立された。

問 地域担当職員や生活支援コーディネーターが担う役割は。

答 地域運営組織の設立から設立後の支援をしていく。

問 取り組みを推進する中での課題は。

答 協議の時間を確保するのに苦慮している。

問 地域運営組織設立後の活動拠点施設の確保は。

答 住民誰もが立ち寄りやすい施設、公民館や空き校舎、地区の集会所や空き屋、空き店舗などの活用を検討していきたいと考えている。

問 事業の推進に向け、専任の支援体制を。また地域運営組織設立後の人材確保や活動を保障するための一括交付金の増額による支援が必要ではないか。

答 今後研究をしていく。

高齢者の外出支援について

問 65歳以上を対象にシルバーパスを発行し、美術館・げんき広場、市内の観光名所の料金・温泉入湯料・公共交通（バス・タクシー）などの無料化や軽減対策を実施することで、高齢者の外出支援の取り組みを。

答 サービスを受けていただくためには事業者の協力も必要であり、どういったことが良いのか今後調査研究していきたい。

新見駅周辺整備と駅舎のバリアフリー化について

問 駅舎のバリアフリー化に向けての市長の決意は。

答 バリアフリー化を望む声は多く、JRへの要望をしており、9月の集中豪雨災害で地下道が浸水したことなども踏まえ、バリアフリー化を含めた駅舎改修が必要と考えている。実現までには相当の時間と財源が必要になるが最重要課題でもあり、具体的な検討に入りたい。

問 実現に向けての手順はどうか。

答 駅を中心に周辺地域全体のまわづくりと並行して検討する必要がある。令和2年度の早い時期に地域住民や関係団体など多方面の人に参画してもらい協議会を設置したい。



ふるかわ ひであき
古川 英明
議員

新見高校の在り方について

問 市として新見高校の在り方をどう考えているか。また、市としてできる支援策はないのか。

答 複数校地解消はやむを得ないが、普通科と専門科を備えた高校であるべきだ。一人でも多くの中学生が進学したいと思える高校になるよう魅力アップにつながる取り組みを積極的に進めたい。市の支援として、高校と大学や地域の連携を強化するための人材の配置を検討している。

問 市民に対して高校問題をオープン化（見える化）できないか。

答 12月23日開催の「明日の新見高校を考える会」では報道関係に公開して議論の内容を市民に知らせる予定。また、市報を通じて取り組みの内容を知らせていきたい。中学生や保護者などと高校の問題を考える機会も検討したい。

人口減少対策について

問 施策内容とその効果は。また、

人口減少対策の戦略的な取組は。

答 平成27年から平成30年までの移住者は780人だが、出生数の減少や進学、就職による若者の市外流出が人口減少の大きな要因である。現在進めている総合振興計画策定の中で、実効性のある施策を検討している。主なものは、産業振興や移住対策の強化、子育て環境や教育環境の整備などを考えている。

問 人口減少問題対策会議の意見の施策化は。

答 委員からは貴重な意見をいただいている。昨年度、委員の意見を反映して、「新見生活応援ガイド」や「移住オーダーメイドツアー」等について、施策の改善を図ることができた。

情報提供の公平性について

問 新たに告知放送機器を設置する場合の費用補助は。

答 一戸建ての住宅に新たに告知放送機器を新設する場合は、12万～16万円の経費がかかっている。分担金として3万5000円を負担してもらい、残りを公費で賄っている。それ以上の費用補助は考えていない。

問 市報の配布の改善を。

答 行政地区総代を通じてできるだけ多くの市民に市報が届くよう協力を求めたい。



いしだ みのる
石田 實
議員

新見公立大学への新しい進입路を

問 完全四大化に移行すると、学生735名、鳴滝祭他、イベントの開催などあると、1000人を超える人が集い、仮に有事が発生した場合緊急車両の出入りも難しい状況と考える。また大学は災害時の避難場所であり、そのためには北側からの新しい進입路が必要と考えるが。

答 大学が避難場所指定されていることや施設内外での災害発生時を想定し、危機管理面からも新しい進입路ルートなどの調査を検討したい。

通勤時における国道180号の停滞について

問 旧渡辺病院前の信号機を時差式に変えたことが主な原因のようであり、主要地方道新見勝山線から国道180号へ登った合流点を花壇の方へ2~3m拡幅すれば、停滞解消に繋がるかと考えるが。

答 県に要望を行っていききたい。

高校生までの医療費無償化を

問 わが市では中学生までの医療費の無償化については県下の先陣を切って実施し、一定の効果を上げているようにいわれているが、既に県下で13の自治体を実施している高校生までの医療費の無償化に取り組みれる考えは。

答 高校生を含む18歳までの医療費無償化についてはこれまでも拡大についての意見をもらっており、調査研究をしている。現在、総合計画の中でも各種事業を精査しており、子育て支援の拡充を含めてさらに検討していききたい。

新見駅西エリアの開発について

問 新見駅西エリアにある市営第一駐車場は残すべきでは。残せないなら市民の皆様に納得できる計画と説明が必要と考えるが。

答 新見駅西エリア整備事業は駅前にぎわい創出が目的。それを踏まえて民間事業者からにぎわい機能を配置した事業提案があった。現在の第一駐車場近くに代替駐車場が計画されているほか、市営第二駐車場と駅東側に民間駐車場があることから大きな利便性の低下につながらないと考えている。



こがわ としふみ
小河 俊文
議員

安全安心について

問 毎年氾濫している風木谷川の治水対策は。

答 雨水対策として、下水道事業計画の中で、雨水計画策定を早急に進める。

問 風木谷川上流の砂防ダム周辺の修繕および維持管理は。

答 砂防ダム周辺の修繕は、既に県に要望している。維持管理についても県に強く要請していく。

問 用水組合員がいなくなった用水路の管理は。

答 基本的には受益者の管理と考えている。

※今後の検討課題としていただくように強く求めました。

子育て支援について

問 現在中学3年生までの医療費無償化を18歳（高校3年生）まで拡大するべきでは。

答 18歳（高校3年生）までの無償化により約2千万円の経費が必要と試算している。現在、総合計画の中でも各種事業を精査しており、子育て支援の拡充を含めて検討していき

たい。

新見駅のバリアフリー化について

現在の状況は。

答 現段階では具体的な進展はないが、9月3日の豪雨災害で地下道が浸水したことも踏まえバリアフリー化を含めた駅舎改修が必要と認識している。新見市の最重要課題として市長が先頭に立つて具体的な検討に入りたい。

問 JR側の優先順位を上げるための施策は。

答 駅利用者を増やす取り組みが整備順位の大事な条件だと思う。今年度の新たな取り組みとして、利用を呼びかけるのぼり旗を掲げ、利用促進を図っている。

問 西エリア整備事業との連携は。

答 駅を中心とした周辺地域全体でのまちづくりと並行して検討する必要がある。西エリアとの一体的な整備を視野に考えている。令和2年度の早い時期に地域住民や関係団体とで協議会を設置し検討していく。

主要地方道新見日南線について

問 かなや橋への歩道橋設置と周辺道路の整備は。

答 慎重に検討をしている。主要地方道新見日南線との接続部や河川護岸の課題もあり、引き続き、管理者の県と十分協議をしていきたい。



なかだ やすとよ
仲田 康豊
議員

農業政策について

問 スマート農業について、農業生産を支えるためにもスマート農業推進は必要だと考えるが、市の取り組みは。

答 担い手不足や高齢化といった農業が抱える課題を解決する有効な手段の一つ。導入については国が技術開発や実証を推進している。動向を注視し本市に有効なものであれば検討したい。市内ですでに防除作業などで数地区が実施している。

今後の企業誘致について

問 市長の公約であった中小企業・小規模企業振興基本条例との整合性は。

答 地域の産業の雇用の確保を脅かしているのではない。人手不足が地場企業の経営を圧迫しているのではない。企業誘致の見直しをするべきではない。

答 人口減少に歯止めがかかってい

ない。原因の一つである若者の流出が大きな課題で、若者が残って仕事ができるよう雇用の拡大を図ることが重要。県営工業団地に2社の立地が決まり売却した。市内のほとんどが中小企業・小規模事業所でそれらを支援するため昨年度振興基本条例を制定した。産業振興会議で意見をもらいながら今後の企業誘致のあり方を十分検討したい。

県道下神代哲多線の立木の伐採について

問 健康の森学園付近の立木が特に降雪時は通行の妨げになっている。ドライバーからの強い要望が出ているが、伐採できないか。

答 市が管理する県道で健康の森学園付近の立木は認識している。通行の支障となる立木の伐採など適切な維持管理に努める。



財政について



すぎもと みちこ
杉本 美智子
議員

問 今後、人口減少に伴いラストワンマイルに係る機器整備事業が負担になってくる懸念がある。他の情報通信技術は研究しないのか。

答 I R U 契約により事業を行っている。新たな情報通信技術については情報収集に努める。

問 合併以来積み増してきた財政調整基金は2015年度71億3593万円をピークに減少に転じ、2018年度には51億671万円になった。基金運用の方針は。

答 災害等緊急時の対応などに利用する。標準財政規模の30%（45億円）は保持したい。

問 公共施設等総合管理計画および再配置計画を財政健全化に活かすべき。縦割りをなくし、関係者と協議するなどスピード感をもって計画を推進すべきではないか。

答 公共施設の床面積を10年で6.5%減らす計画。現在3年経過し1.5%減少した。

問 健全財政を維持するための市長

の考えは。

答 公共施設の維持管理を適正に行い、有利な財源の確保に努めるとともに、地域経済を活性化して一般財源の確保に努める。

労働力確保対策について

問 I J U ターン就職奨励金の利用実績は。

答 市外に1年以上暮らしていた人が転入し、市内事業所に就職した場合、奨励金として一人20万円交付する制度。本年度は10月までで33件650万円執行した。

問 その他の労働力確保対策と成果は。

答 平成29年度から資格取得への助成事業は209件利用。また、就職相談専門員を配置し約1000件の相談を受けた。

問 外国人技能実習生の受け入れを支援する考えはないか。

答 市としてどのような支援をする必要があるのかニーズを調査したい。

【その他質問の項目】

大学を活かしたまちづくりについて（大学の知見を活かすとは。大学連携推進室の設置目的と事業実績は。地域共生推進センターの活用方法は。）



えのき ひでお
榎 日出男
議員

財政計画について

問 昨年7月の豪雨災害、9月の台風24号の豪雨災害、本年の局地的集中豪雨で、多額の市債発行、資金を投入し、さらに今後見込まれる事業、新見駅周辺の整備計画、新見市第3次総合振興計画（令和2年度以降10年間）の事業に対して財政計画を明示健全財政を図るべきと思うが。

答 財政計画は、公債費の推移など将来の財政状況を把握するうえでも必要なものであり、国の制度改正や経済状況など勘案しながら、毎年度策定している。今年度の策定期間については、新年度当初予算の内容や総合計画に基づいて実施する事業などを反映させ、本年度末に公表することとしている。

選奨土木遺産について

問 新見市の宝としての今後の取り組みとして、観光スポットとしての考えは。

答 用郷林道七曲がりは明治45年に開通後、今もなお当時の姿をとどめており、歴史的価値を認められ土木学会に選奨土木遺産として認定されたものであり、本市としても、観光資源として着目し、隣接する鳴滝と合わせ、近隣の別所アウトドアスポーツセンターや千屋温泉いぶきの里と合わせた、新たなモデルコースとして、観光PRを進めていく。

問 今後の維持管理と新見市独自の産業遺産としての指定は。

答 用郷林道七曲がりは、後世に残していくべき歴史的価値を持った土木遺産であり、適切な維持を図っていく必要があると考えている。

また、本市には産業遺産の規定がなく、文化財・遺産として、調査研究していきたいと考えている。

【その他質問の項目】

- ・青少年健全育成について
- ・障害者支援について



いわた ひでゆき
岩田 秀之
議員

防災・減災について

問 風木谷川、木谷川の今後の雨水対策については。

答 本年度から新見市公共下水道事業計画の中で、雨水排除のため雨水計画の策定に着手していく。その後対策工事に向けた詳細設計を実施する予定としている。

問 風木谷川、木谷川の今後の具体的な雨水対策はどのようにしていくのか。

答 風木谷川の通水断面や雨量強度などを確認しながら有効であれば川底の改修も考えている。また、木谷川は管理者の県と調整を図りながら総合的に検討していく。

問 質問をした地域以外での雨水対策は今後どう進めていくのか。

答 都市計画区域内の雨水対策については、計画的な事業実施に向けて、順次雨水計画を策定する予定である。

林業振興について

問 担い手育成で人材を輩出するための本市独自の林業大学校設立を考えていないのか。

答 林業大学校については、現在、県が勝央町にある森林研究所に新しく研修施設を計画していると伺っている。その施設を積極的に活用することが有効であり、市独自の林業大学校については考えていない。

問 新見市から勝央町に行くのは個人の負担がかり、今後どのような支援をしていくのか。

答 適切な支援制度については、今後考えていく。





おかざき ひろお
岡崎 裕生
議員

農業振興について

問 有害鳥獣被害対策はどのような指針で行われているのか。

答 地域ぐるみで積極的な追い払いを基本に考えている。農林課と支局で連携し、駆除班との連携で対策を実施している。

問 有害鳥獣被害対策の課題は。

答 駆除班員の高齢化により減少傾向にあることが課題と考える。

問 持続可能で有効な有害鳥獣被害対策についての考えは。

答 防護柵の設置を推進し、集落が一体となって被害予防に取り組めるよう支援を行っている。

問 ジビエ産品に対し支援は。

答 新たな特産品開発への一部経費の助成などを行い支援している。

問 イノシシなどをまるごと冷凍保存できる施設を設置できないか。

答 設置することは考えていない。

問 農業戦略の基本となる計画をどう示されるのか。

答 農業経営基盤強化促進法に基づく構想を策定し、担い手の育成や農

地集積等に関するあらゆる事項についての基本方針を示している。

問 簡易給水施設について

問 本市簡易給水施設の概要は。

答 簡易給水施設は22カ所あり、給水人口は、平均19名である。料金については、基準額をもとに、指定管理者が定めている。

問 修繕や改修にかかる経費について、本市の方針は。

答 修繕に関わる経費について、受益者負担軽減を図るため検討を行っている。

ドローンを成長産業に

問 ドローンをスポーツ行事やイベント、観光地PRに活用できないか。

答 観光PRについては、現在スポーツ撮影中。今後ホームページにも掲載していきたい。可能な範囲で活用していきたい。

問 森林・林業面にどのように活用されていくのか。

答 森林を撮影し、林業施策や統計情報で活用することが考えられる。

問 測量部門での活用は。

答 昨年の7月豪雨災害でもドローンが撮影した動画が有効に活用され、被害箇所の土量も把握できた。今後、あらゆる場面でドローンが有効に活用していきたいと考えている。

議長等の活動報告

- 11月10日 あおぞら「ふれあい芸能祭」【議員】
第35回哲西町文化祭【議員】
11日 中国横断自動車道岡山米子線4車線化促進
総決起大会(～12日)《東京都》【副議長】
議会報告・意見交換会(12日、13日、14日)
《市内16会場》
12日 産業建設常任委員会／総務消防常任委員会
15日 新過疎法制定実現総決起大会(第50回定期
総会)《東京都》【議長】
17日 第67回新見市駅伝競走大会【議長】
わくわくゆうびんきょくフェスタ【議長】
19日 議会広報特別委員会／議会運営委員会
20日 天皇陛下御即位奉祝式典・提灯行列《岡山市》
【議長】
23日 一明日を拓く一浪崎文彰ライムアートの世
界 開会式【副議長】
26日 令和元年12月新見市議会定例会
28日 第16回都道府県対抗全日本中学生男子ソフト
ボール大会第2回実行委員会【議長】
29日 新見市危険物安全協会発足60周年記念式典
【議長】

- 12月1日 新見市婦人連合協議会大会並びに新見市民
運動推進協議会大会【議長】
2日 民生委員児童委員及び主任児童委員委嘱状伝
達式【議長】
4日 本会議(一般質問)／議会運営委員会
5日 本会議(一般質問)
6日 いぶきの里スキー場安全祈願祭【議長】
8日 第33回新見市スポーツ少年団交歓交流大会
及び新見市スポーツ少年団指導者・育成会員
交流会【議長】
新見吹奏楽祭【議長】
19日 阿哲商工会行政懇談会・交流懇親会【議長】
23日 第8回明日の新見高校を考える会【議長】
24日 元哲多町議会議長 故土屋明房氏叙勲伝達
式【議長】
26日 新見市ふるさと大使委嘱式《大阪市》
【副議長】
1月2日 令和元年度新見市成人式【正副議長】
3日 第43回新見市新春ロードレース大会
【正副議長】
6日 新見商工会議所・経済クラブ新年互礼会
【議長】
8日 議会広報特別委員会

行政視察報告

総務消防常任委員会

10/28 大阪府高槻市・高石市
10/29 大阪府八尾市
「災害発生時における議員対応マニュアルについて」

総務消防常任委員会は、本年9月3日の集中豪雨災害および昨年7月の西日本豪雨災害を受け、災害における議員対応マニュアルについて視察しました。

まず、10月28日高槻市役所で、災害発生時における議員の対応マニュアル「災害時初動および平常時における行動マニュアル」について視察しました。

高槻市は、平成30年6月18日大阪府北部を震源とする大阪北部地震に見舞われました。それを受け高槻市議会は災害に対応する必要性を認識され、行政や市民と力を合わせ、災害発生直後から迅速かつ円滑な行動と定例会等の開催や運営を可能とするルールを策定されていました。

主な内容として、
○議員の安否および所在等報告すること

○市からの被災状況等の情報を議員に提供し、情報の共有に努めること
○議員からの被災情報や要望等は、議会事務局を通じて報告すること

などをマニュアル化していました。
次に、高石市議会で、災害時の議会対応について視察しました。

高石市では東日本大震災を受け、災害対策会議設置要綱・災害対応指針・災害時の対応手帳を作成されていました。

主な内容として

○災害対策会議設置要綱では、議会災害対策会議の役割について

○災害対応指針では、初期の対応・経過後の対応について

○災害時の対応手帳では、災害マップなどの掲載

など、詳細にわかりやすくマニュアル化されていました。

翌29日八尾市議会で、大規模自然災害発生時の対応について視察しました。

八尾市議会では、東日本大震災を

受け平成24年から特別委員会を設置し、平成26年2月18日大規模自然災害発生時の対応要領を策定されました。

これは、災害時の市議会の役割を明確にし、執行部の災害対応を側面的に支援し、迅速に対応することによる特徴がありました。

主な内容として

○市議会災害対策会議の役割

○災害対策本部との連携

○議員の対応などの基準

などをマニュアル化していました。

この視察により総務消防常任委員会では、今後それぞれの取り組みや内容を参考にし、ぜひ新見市議会でも災害時における議員マニュアルができるよう、提案をしていきたいと考えています。



文教福祉常任委員会

10/23 広島県呉市
「国民健康保険事業について」
10/24 愛媛県砥部町
「子育てモバイルサービス事業について」

10月23日、広島県呉市を訪問し、国民健康保険事業について視察しました。呉市ではレセプト点検をもとにジェネリック医薬品の使用促進と、頻回受診・重複受診の指導をしていました。保健師が対象の患者宅を訪問し、患者の困り感を聴取し対話しながらいていねいに指導することで適正受診を促し、健康づくりと医療費削減に大きな効果が挙げられていました。さらに、生活習慣病で継続した治療と観察が必要にもかかわらず通院していない患者に対しても電話等で介入し、生活の様子をうかがうとともに受診を勧め、重症化予防に努めていました。市民の健康づくりと国保財政健全化のために、呉市の取り組みは大いに参考になりました。翌24日は愛媛県砥部町で「子育てモバイルサービス事業」などの子育て支援施策について視察しました。

砥部町の「子育てモバイルサービス事業」は予防接種日や乳幼児検診日が近づくとお知らせメールが届くところが、新見市の電子母子手帳とは違う特徴です。利用者は町が発信する健康診断のお知らせや、親子イベントの情報などを受け取ることもできます。この事業を周知するため、地区担当保健師が機会をとらえて直接チラシ配布と声掛けを行い、認知度は83・4%、登録率は22・9%となっていました。



愛媛県砥部町での視察の様子

また、1歳未満の子供のおむつ、授乳用品などを1か月3千円助成する事業と、第2子以降の1歳未満児

に5万円を上限に紙おむつ購入券を発行する事業にも取り組んでいます。その他にも産前産後の親子が交流する機会の創出、発達障がい児の相談と療育の場を毎月1回開催するなど、多様な子育て支援策を実施していました。砥部町では、妊娠時から出産後まで地区担当保健師による切れ目のない丁寧な対応がされているという印象を受けました。

産業建設常任委員会

11/6 兵庫県六栗市

「兵庫県立森林大学校」

滋賀県東近江市「中山間地域活性化事業と農村振興の取り組みについて」

11/7

大阪府高槻市「真庭市場」
真庭市「バイオマス事業」

兵庫県立森林大学校は、平成29年4月に開校し、次世代の林業を担う人材を育成するための兵庫県立の専修学校であります。本市でも、森林・林業を専門的に学ぼうとする者への支援や、林業の担い手を育成するシ

ステムの構築、災害を防止するための強い林道敷設への転換など、将来の林業振興につなげる取り組みの必要と森林大学の誘致を強く感じました。

東近江市では、圃場整備は90%終了し、農地集積率も76・2%と進んでおり、県や市、農業委員会の積極的な取り組みがうかがわれました。多面的機能支払交付金事業は、市内での事務広域化が行われていました。

中山間地域活性化事業は、平成23年から3年間、「集落支援員」が課題把握や住民の活動促進を任務に配置されその後、地域おこし協力隊に任務を引き継ぎ、隊員が地域の集落支援活動と地域資源をいかした生業づくりに取り組み、地域振興と生産普及活動を行い、協力隊の定住率は88%ということでした。

真庭市のアンテナショップ「真庭市場」は、市の農畜産物の販路拡大と観光PRを目的に、高槻市の住宅街にあり人気がありました。

真庭市は、CLTをはじめとする木材加工や林業振興、バイオマス産業、SDGsの先進地であります。

真庭バイオマス発電所は2015年4月から稼働し、2万2千世帯分の電力に当たる、年間約8000万キロワットを発電し、運営は官民9

団体で設立され、市も12・5%の出資をしています。

真庭市の自然再生エネルギーを活用するカーボン・ニュートラルという地道な取り組みは、温暖化の抑制と持続可能な開発目標の達成の方向に着実に向かっています。

視察を振り返り、本市の産業振興の可能性を改めて認識することができました。

農林業では、農地集積や農地整備、担い手不足、林産材の利活用、鳥獣被害など多くの課題が山積しています。それが人口減少動向にも加速要因となってしまうと。

しかし、課題の中にこそ未来づくりのヒントがあるはず。バイオマス資源の活用や産業振興、地域づくり・担い手育成など他市の好事例を参考に、本市の資源や魅力を磨き上げ、未来に向かって大胆に投資していかなければなりません。

持続可能な開発目標をキーワードにして、その理念に基づいてまちづくり構想を再設計し【新総合計画】に反映していく必要を痛感いたしました。

1 班

西川 照雄 議員
岩田 秀之 議員
林 光和 議員
塩飽 満路 議員

今回は、4会場での開催でしたが、1会場は出席者がおられず、3会場でのみの開催でした。少人数ではありましたが、地域の現状や課題などを、ひざを交えて活発な意見交換をする事が出来ました。議会報告では、平成30年の7月豪雨災害の普及状況、令和元年の9月集中豪雨災害の被災状況の災害対策費。また、財政調整基金の状況。そして、現在の大きな課題である新見市の将来人口予想などを報告させて頂きました。意見交換会の中では、本市の人口減少について、移住・定住支援に力を注いでいく事。また、携帯電話が使用できない地域があり、土地を提供するのでアンテナを建ててほしいなどの要望も出ました。このことについては、本市全体の課題でもあることが分かりました。今後、誰もが住んでよかったと思える新見市

会場

- 11/11 新見商工会議所
- 11/12 哲多大田
ふれあいセンター
- 11/13 福本ふれあいセンター
- 11/14 哲西公民館矢神分館



をオール新見で取り組んでいかなければならないことを実感しました。

意見交換会をしました。

2 班

古川 英明 議員
坂東 義生 議員
小郷 昌一 議員
橋本 亨子 議員

この度は、参加者のお互いの顔が見えるようテーブルを囲んでの会場設定をしました。
11月11日神郷、13日大佐の会場は、町中にあっても参加者は0人でした。この点につき、報告会のあり方やり方について考えさせられました。

12日の足見ふれあいセンターは、12人の参加で多様な意見提言要望があり、5件を後日回答とし、環境公害については市民全体で関心を寄せねばと感じました。

14日の千屋井原郷土文化伝承館は、4人の参加で人口減少問題・鳥獣被害対策など地域の困難がよく分かりました。

市内の周辺部では、

会場

- 11/11 神郷保健センター研修室
- 11/12 足見ふれあいセンター
- 11/13 おおさ総合センター
- 11/14 千屋井原郷土文化伝承館



道路や人口減少問題・鳥獣被害対策など、より以上の経済的施策が必要と考えられます。

3 班

宮本 英基 議員
山本 昌次 議員
杉本美智子 議員
仲田 康豊 議員

会場

11/11 井倉市民センター
11/12 大佐公民館
大井野分館
11/13 菅生市民センター
11/14 神郷三坂生きがい
活動支援センター

議会報告・ 開催

4 班

岡崎 裕生 議員
小河 俊文 議員
難波 孝一 議員
榎 日出男 議員

会場

11/11 哲多総合センター
11/12 高尾
ふれあいセンター
11/13 哲西公民館野馳分館
11/14 長屋公会堂

井倉市民センターでは、水害を食い止めるためのダム運用の在り方や河川の浚渫を急いでほしいとご意見をいただきました。

大佐公民館大井野分館では、過疎高齢化に伴い山林の荒廃や集落の維持を心配する切実なご意見が出されました。

菅生市民センターでは、自主防災組織に対する防災資機材補助制度の見直しや、災害時の林道改修補助制度の柔軟な運用についてご意見をいただきました。また「議員は地域に向いて市民の声を聞くように」というご指摘もいただきました。

神郷三坂生きがい活動支援センターでは「指定されている避難所は、実際に豪雨の際、避難できない位置にある」というご意見が出され、避難場所や日ごろの備えについて意見交換できました。また

「過疎化に伴い公共施設の在り方について見直すべきではないか」というご意見もいただきました。どの会場でも「災害復旧を急いでほしい」というご発言がありました。また、集落の現状や災害の状況を聞かせていただく有意義な議会報告・意見交換会になりました。



参加者の皆様には、お忙しい中、ご出席を頂きありがとうございます。また、

ご意見やご提案をお持ち寄り頂いたおかげで、災害への危機管理や災害復旧、まちづくり、議員定数など多岐にわたって意見交換が行われました。参加者の皆様の素晴らしいバランス感覚にも助けられ、スムーズに進行することができました。少人数の会場でも、鳥獣被害や共同調理場などについて、一人ひとりのお考えを深く伺いすることができました。大変有意義な意見交換会でした。

今回は出席者が極わずかな会場もあり、マンネリ化と形骸化という課題の一端が垣間見えた報告会でもありました。政治への関心の減退傾向や議会に対する不信・不満も否めませんが、事前の宣伝活動など、改善の余地もあります。

それらのことを指摘してくださった方もおられました。これらの課題を重く受け止め、今後の意見交換会のあり方や議員活動の方向性に反映させ、議会改革にまい進して参ります。



議会Q&A



Q 市議会議員を長く続けると 年金が受け取れるの？

A いいえ、現在、議員年金制度はありません。昭和37年から平成23年までは議員年金制度があり、それまでに原則12年以上務めた議員には年金が支給されていますが、市町村合併が進み議員数が減少したことなどからその制度は維持できなくなり廃止されました。現在、大半の議員は国民年金に加入しています。しかし、議員のなり手不足を解消する一つの手法として、議員も厚生年金加入ができるように求める意見書が多く、この度、新見市議会からも国に対して意見書を提出しました。

19日 (木)	16日 (月)	13日 (金)	12日 (木)	11日 (水)	10日 (火)	9日 (月)	6日 (金)	5日 (木)	4日 (水)	3月 3日 (火)	2月 21日 (金)
閉会 本会議	議会広報 特別委員会	議員定数等検討特別委 員会 新見駅周辺地域のまち づくり特別委員会	予算決算 常任委員会	予算決算 常任委員会	産業建設 常任委員会	文教福祉 常任委員会	総務消防 常任委員会	予備日 本会議	本会議 一般質問	本会議 一般質問	本会議 開会

3月定例会(予定)

ご意見・ご提案は

新見市議会事務局内
議会広報紙編集係

〒718-8501
新見市新見310-3
電話 0867-72-6151
FAX 0867-72-6183

メール
gikai@city.niimi.lg.jp

編集後記

平成30年7月の西日本豪雨および同年9月の台風24号、令和元年9月新見市局地的集中豪雨災害により、被災された皆さまには、心よりお見舞い申し上げます。

本市は、豪雨災害により、甚大な被害を受けました。地球温暖化に伴い、今後こうした大規模な自然災害の発生が憂慮されます。議会は、議会本来の役割とは別に、市民の安全を守るため、市長と連携し、非常時に即応した役割を果たすことが求められています。

そこで、本市議会は、大規模災害発生時の議会としての対応、支援・協力などについて、総務消防常任委員会にて視察を行い、調査研究してまいりました。今後、令和2年4月に災害時における議員マニュアルを作成したいと考えています。

(宮本英基)